

# 農園通信

2020年11月12月

発行・問合せ先 福田  
(農業振興団体協議会・町民農園部会)  
[fukuda-ka@amail.plala.or.jp](mailto:fukuda-ka@amail.plala.or.jp)

## えんどう豆の栽培

“春を待ち望んでえんどう豆の種を落とす”

えんどう豆は晩秋に種を蒔き、小さい苗で寒い冬を過ごし、翌年の3月、春の訪れとともに一気に背を伸ばし花を付けます。

種蒔き適期は短いですが、この辺りでは、10月末から11月初め。

メモ1 幼苗の状態ですぐに冬越しさせることが重要。小さすぎても大きすぎても冬を越せないことがあるので、適期に種まきをしましょう。

(冬越しの目安の草丈は10~15cm) 特に実エンドウは寒さに弱いです。

メモ2 マメ科は根につく根粒バクテリアが窒素肥料を作ってくれます。肥料は少な目です。3月の背の伸ばし初めに追肥します。

メモ3 ツルが折れないように上にスーッと伸ばします。インゲン豆と違ってツルはとても弱く、折れると成長しません。

メモ4 サヤに光りがあたらないと実が入りません。その為えんどう豆は1列植。

また、脇芽が多いと中の大きなサヤに光が届かないので、向こうが透ける程度に脇芽を取ります。



稲わらで防寒

## 市民農園 (ファミリー農園を含む) …今回はお金について考えてみましょう。

ファミリー農園をはじめ町内の多くの農園の利用料は、1区画(約16㎡) 5,000円/年です。

ファミリー農園がスタートしたのは1980年頃(40年前)。その時の利用料が5,000円で、以降一度も改定されていません。この間、



◇消費者物価指数は40年間で約1.5倍に

◇社会的企業(マイファーム、アグリメディア等)の貸農園が注目され、料金は5万円~10数万円/年

◇税金は市街化区域と市街化調整区域で大きな差を生じ、たとえば市街化区域の広瀬3・4・5丁目の農地の税金は都市計画税を含め、1反≒1,000㎡で約28万5千円(2019年10月税務課資料) 40年で100倍程高くなっています。(その他にも考慮すべきことがあります) 大きく高騰した税金と利用料とのアンバランスが一番の問題です。

近年、農地を取り巻く環境は大きく変わり、農園の社会的価値も高くなっています。勿論、個々の農園の利用料を決めるのは経営者である地主ですが、農園を維持していくためには、社会的価値に見合うものにしていくことも必要ではないでしょうか。

市民農園はコミュニティ、福祉、環境、耕作空間として都市に必要なもの。

市民農園(農家と町民)が食や環境の面から地域を維持発展させることをめざします。

### 農地所有者の方へ

「農家が楽で利用者が楽しい市民農園の開設・運営の仕方」懇談会を開催。

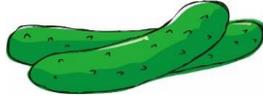
日時・場所はお問い合わせください。農家がスムーズに農園の運営が出来るように、また利用者にとっても気持ちの良い農空間となるよう、情報を発信しています。

# (;^ω^;)失敗は宝

うまく出来たことは意外と忘れるものです。反対に、失敗は悔しさと共に記憶に残るので、失敗からいろいろ学べます。失敗大歓迎！  
**レベルアップの鍵は失敗にあり**

## 経験談

<キュウリ> Fさん



今年は9月にもキュウリを収穫したいと、7月中旬に良い苗が手に入ったこともあって2回目のキュウリに挑戦しました。幅1mの広いうねを作っています。1回目のキュウリの向かい側が空いていたのでそこに定植しました。

失敗1…向かいの1回目のキュウリの根は当然うね全体に広がっているのので、その根を傷つけてはいけなないので(1回目のキュウリの木はまだ元気)、耕さずに2回目の苗を植えました。

失敗2…1回目のキュウリの木は大きいので、少しぐらいバト病になっていても大丈夫でしたが、そのバト病のウイルスが2回目の幼苗に移り、可哀そうな状態に。

失敗3…耕せなかったのだから元肥を入れていません。植え付け後早めに追肥をやるべきでしたが、それを忘れていて、肥料切れの状態に。細い茎で、それでも、健気(けなげ)に上に向かってツルを伸ばしていましたが可哀そうでした。

結局、根が育たなかった為に弱弱しいキュウリにしまいました。当然収穫できたキュウリは少し。2回目失敗したので、リベンジと3回目のキュウリに挑戦。種を買ってきて苗を作って…しかし9月になってからではやはりこれも失敗。失敗失敗のキュウリ作りでした。

教訓⇒当たり前ですが、植える前にうねはしっかり耕すこと。ここで手抜きをしてはいけません。2回目のキュウリは、1回目のキュウリのウイルスがうつらない様に離れた場所に植えること。1回目の植え付け時に、2回目の場所も考えて(準備して)おくこと。



<もう一手間かけた家庭菜園と我が家の料理> Sさん

豆類、霜対策をしなくても済む様に(手抜きですが)、出来る限り遅く蒔いていました(結果として収穫も遅くなっていました)。

玉葱、「早生」は保存期間が短いので難ですが、5月初めには収穫可能なので畑の効率面からよいと思います。

我が家の「早生」は早くも腐ったものが出だしました。そこで消化をはかるため、玉葱の丸ごとスープ煮を作ってみました。

他には、ナスはからし漬けと揚げひたし、ジャガイモは肉じゃがとコロケ、キュウリはきゅーちゃん、シントウは佃煮、茗荷は甘酢漬け、シソはジュース、いずれもネットからのレシピを参考にしてですが、作りました。

豆類では、今年は植えていませんがもう少ししたら落花生の収穫、バターを入れたピーナツバターは風味があっておいしいです(パンに塗りやすくするため市販品にはマーガリンが使用されるのが普通、バターはすぐに固ってしまいますので)。

先日はナスの種をとりました。家内が10年近く前に姫路の農家の方から「地の野菜」ということでもらった種、丸ナスです。

繰り返しているうち次第に丸さがなくなってきたように思います。他にも「地の野菜」として、網干メロン、深志野(JR 御着駅近くの姫路国分寺跡周辺)メロン、をもらい種取りをしているのですが、これもだんだんいい加減になってきました(子供のころ夏にマッカ(真桑)をよく食べました。産地が名前)。

この6月以降時間的余裕が少し出来たので、「もう一手間かけた家庭菜園と我が家の料理」、を目標にしていきたい、と思っています。